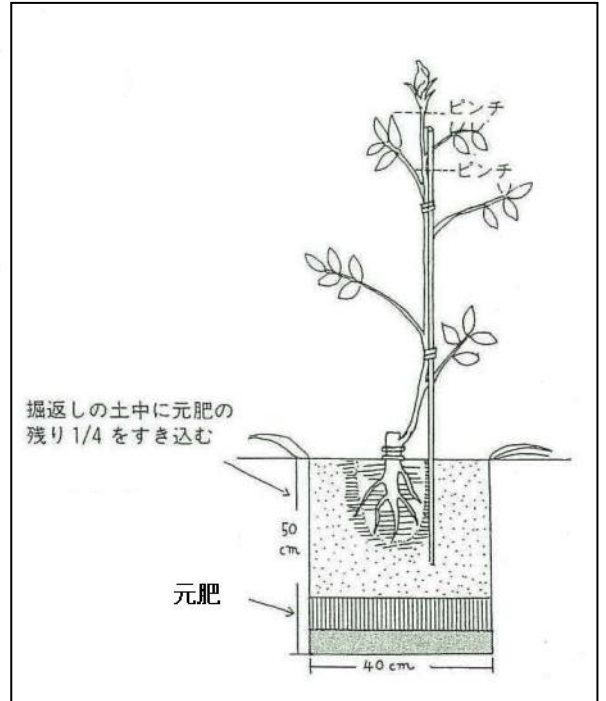


# 大苗（秋苗）の植え方

## ①露地植えの場合

1. 根を乾かさないうちに植付時まで水につける。（1週間ほど）
2. 接口（つぎぐち）を地表に出す。  
結束ビニールを取る。必ず支柱をする。
3. 植込みの時は水をたっぷり。
4. 植土（うえつち）に肥料はまぜない。
5. 日当たりのよい場所であるべく水はけの良い土地がよい。
6. 植え付け適期  
配布苗は1時間ほど水につけ、10月中下旬に植栽する。  
一般的にはなるべく寒くなってから 12月～2月末

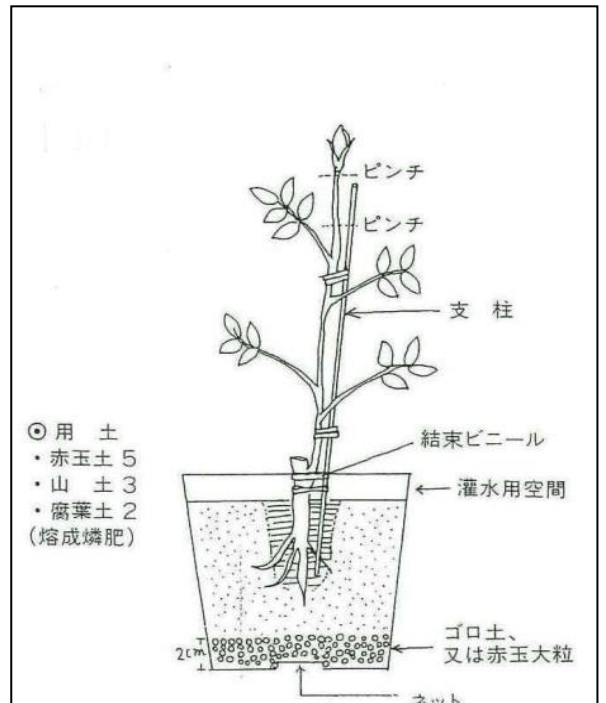


### 肥料

1. 元肥（もとごえ） 配合肥料 1kg、油粕 1kg、骨粉 1kg、ヨウリン 500g を混合して穴底に入れる。  
配合肥料（7・7・7以上のもの）1kg、腐葉土 1kg の混合でも代用可。
2. 追肥（ついひ） 配合肥料または元肥の残りを適宜やる。

## ②鉢植えの場合（ミニバラも同じ）

1. 根を乾かさないうち水につけておく。  
（1週間ほど）白根を傷めないようにする。  
※すぐに植栽しても可。
2. 大苗の場合は、素焼鉢8号、  
ミニバラは6号に植える。
3. 肥料は元肥として鉢土中に入れない。  
追肥として毎月継続して与える。
4. 灌水は充分に下穴から流れ出ても  
2回位繰り返してやる。
5. 日当たりの良い場所に置き、  
強風と冬の凍結に注意する。
6. 根元の接口の結束ビニールを取る。  
接口は地表に出す。必ず支柱をする。
7. ミニバラは、かなり株の中が混んでいるので  
風通しを良くして、すかすようにする。



### 用土

赤玉土（中粒）：山土：腐葉土（バーク）  
→ 5 : 3 : 2

# バラ(花)いっぱい・みどりいっぱいのまちに

## 1. 市民の花「バラ」

花とみどりのあふれる美しい都市づくりの推進と、明治百年記念事業の一環として、昭和43年に市民の皆さんと民間諸団体の協力のもとに、富士市を象徴するにふさわしい市民の木「クスノキ」、市民の花「バラ」が制定されました。

また、平成13年12月には、「ばらサミット」開催に向けて、富士市のオリジナルバラ「かぐや富士」が誕生しました。

## 2. みどりいっぱいのまちづくり

市は街路樹をふやしたり、生け垣づくりへの補助金を出したりするなど、みどりを大切にしたまちづくりをめざしています。また、市民の花であるバラも、公園や学校などで大切に育てられています。

みなさまのご家庭でも富士市の花「バラ」を咲かせてみませんか？

### 【バラの種類】

- ☆四季咲大輪系・・・花径10～15cmの大輪花を咲かせます。香りの強い品種が他の系統よりも多いことも手伝って、バラ花壇の主演として親しまれている系統です。  
(HT)
- ☆四季咲中輪系・・・花径5～11cm程の大きさですが花付きが良く、花で株が覆われます。多くの品種は房咲きなので、花が次々と咲き、花保ちが良いことも特徴です。  
(FL)
- ☆つるバラ系・・・空間を活かして立体的にバラを演出できます。バラをたくさん咲かせて楽しむことができます。  
(CL)
- ☆ミニアチュア系・・・花径2～5cmの小さな可愛らしい花を次々と咲かせます。品種によっては非常に花保ちの良いものもあり長く花を楽しめます。  
(Min)

### ★日常管理

水やりは、渴いたら3日に1度程度を目安に行います。  
肥料は、5月から10月にかけて月に2回化成肥料を20グラムずつ、11月から12月の間に1度、元肥を与えます。

